

さを示してくださらなかったら、私たちは軽薄な人間のままでいたでしょう。しかし、神がご自分の恵みの深さを示してくださらなかったら、絶望的になっていたでしょう」と。ですから、大切なのは過ちを犯さないことではありません。むしろ、自分が過ちを犯す人間であることを認めることです。そこから健全な人生が始まるのではないのでしょうか。「善を行ないたいという願いはあるが、それをする力がない。ああ、私は何とみじめな人間なのだろう」というパウロの言葉はそのまま私たちの叫びです。そのような徹底的な無力さの中でじっとイエスを見つめます。欠けるものが多ければ多かれ、それだけ私たちは自分の貧しさに徹して神のあわれみを求めるのです。そのとき変革が訪れます。ルターはこれを「信頼に満ちた絶望」「慰められている絶望」と呼びました。

ある家庭集会でのことです。旅行中のご夫婦が、たまたま参加して下さったことがありました。奥さんは熱心なクリスチャンでしたが、ご主人はそうではなかった。それを知って、ひとりの方が、「奥さんがクリスチャンだと、おやさしくてよかったです」と、ご主人のほうにたずねられた。すると、ご主人の返事が返ってくる前に、奥さんが激しく手を横に振って、こう言われたのです。「いいえ、ちっともやさしくなれないんです。私の気性は激しいし、教会に行っても、私がちっとも変わらないので、主人は、いつまでたってもクリスチャンになってくれません。みんな私のせいなんです」その言葉に、一瞬、私たちはどう話を進めてよいかわからなくなりました。まもなく隣にいた彼女のご主人が、静かな口調で話し始められました。「ここにおられる方は、皆さんクリスチャンのようだから、申しませう。こんなことはだれにも、もちろん妻にも言ったことはないのですが、でもよい機会ですから。実は、妻が教会に行くようになって、妻は変わったなあとは私は、つくづくそう思って感謝しているのです。私への態度が、ほんとうにやさしくなりました」それを聞いた奥さんの目には涙が溢れていました。おそらく自分の信仰に対する夫の最初の評価の言葉だったのでしょう。夫はそんなふうに思ってくれたのかと、それがうれしくて涙を流されたのに違いありません。奥さんの感激の涙を見て、そこにいた私たちも、一瞬、何とも言えない感動に包まれたものです。奥さんは、何とか自分を変えようと努力なさった。努力しても努力しても、相変わらずの自分が悲しかった。そのために幾たび神に祈られたことでしょう。ところが自分の弱さを悲しむ奥さんの心は、確実にご主人の心を動かしていたのです。このように私たちの立派さが人の心を動かすものではありません。むしろ私たちの弱さや愚かさを素直に認め、それを悲しむ心が、人の心を溶かしてゆくのではないのでしょうか。■



2012年1月

チャールズ&amp;ダイアン・グリコ

この終わりの時代に生きるクリスチャンに

## 「神様は、何を望んでおられるのでしょうか？」



チャールズ&amp;ダイアン・グリコ

イエス様は私たちに、終わりの時代には、罪がノアの時代と同じようになると警告されました。「その（人の）心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾く。」創世記 6 章 5～8 節には；「すべての肉なるものが、地上でその道を乱していたからである。」とあります。私たちが国内そして世界のニュースを見たり、読んだり、聞いたりする時、私たちが「世の終わりに臨んでいる」（1 コリント 10 章 11 節）世代であると結論付けることは難しくありません。 私たちは非常に悪い時代に生きているだけではなく、増加する地震や津波、飢饉、クリスチャンに対する迫害や偽預言者たちなど…、増大する性的倒錯や暴力が、ポルノ、オカルトを通して、またインターネット、テレビ、ゲームなどの電子機器や、本、雑誌などにおいて神を冒瀆するようなことが急激に広がっています。 それでは新生して天国に籍のあるクリスチャンは、この破滅的な時代においてイエス様のために勝利の人生を生きる為には何をすべきでしょうか？

「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えて下さったものは、みなそうである。」

(1 コリント 2 章 9 節)

「神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。」

(1 コリント 2 章 10 節)

### 「求めましょう！」 聖霊様に求めましょう！

●私たちがキリストの花嫁としての高い召しにふさわしい者となれるように、イエス様の血潮できよめられ、聖く（純粹で）しみもしわもなく、神様からの力を受けてイエス・キリストに完全に明け渡すことができるように、聖霊様に求めましょう。そうすれば、聖霊様がこの終わりの時代にイエス様のもとへと引き寄せて下さる魂の大収穫に私たちも加えていただくことができるでしょう。「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。」（2 コリント 13 章 13 節）神様は私たちを信仰のある、強く勇敢な者にすることができます！

### 「元気を出しましょう！」 神は真実なお方です！

●元気を出して、神様のために偉大なことをする準備をしましょう、そして神様からの偉大なことを期待しましょう。覚えていてください！ 主は私たちに恐れのお霊ではなく、力と愛と慎みの霊を与えて下さいました。聖霊様は決して恐れません。聖霊様はどんな状況にあっても「克服する」力を私たちに与えて下さいます。また聖霊様は神様がして下さった

ことや今なされていることを私たちに教えてくれるだけではなく、これから神様が確かなになさることも教えて下さいます。神様はいつも勝利者です！そして私たちの内に住まれる聖霊様は、今私たちが直面している、またこれから直面するであろうあらゆる試練や誘惑の中にあっても私たちを守って下さいます！（1 ペテロ 1:3-9 を読んでください）また、「あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることはなさいませぬ。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えて下さいます。」（1 コリント 10 章 13 節）

### 「気付きましょう！」 神は誰一人として滅びることを望んではおられません！

●神様がこの時代において、クリスチャンや未信者に「目覚ましコール」のメッセージを送っていることに気付きましょう！ 21 世紀に生きるすべての人々にさばきがあることを神様は明らかにしています。そしてこの地から偶像礼拝者や憎悪や暴力を愛する者を最終的には滅ぼされます。人々や国のリーダーたちが自分たちの人生から神様を除外することを選択する時、彼らは、義なる審判者、唯一の神であり天と地の創造者であるお方の前に自分たちの命あるいは国をさらすことになるのです。私たちが神様ご自身から離れてはどこにも安全がないということに気付くために。しかし神は誰一人として滅びることを望んではおられません！「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世（私たち）を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」（ヨハネ 3 章 15～17 節）

### 「神と交わりましょう！」 神様は喜んで神様を求める者に確かに報いて下さるお方です！

●神様と絶えず交わって下さい！他のクリスチャンと集まることをやめてはいけません。あなたがたの最も聖い信仰を建て上げるために霊において祈りましょう。「あなたは、祈るときには自分の奥まった部屋に入りなさい。そして、戸をしめて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いて下さいます。」（マタイ 6 章 6 節）

### 「祈りましょう！」 新しく生まれその籍が天国にある人々に、主は何を望んでおられるのでしょうか？

●「祈って下さい」…すべての真実なクリスチャンは熱心に、自分の国のため、国のリーダーのため、未信者や信者（自分たちを含む）の霊的覚醒（リバイバル）のために、そしてそのリバイバルがその国の社会のあらゆる部分に届くように、祈るべきです。 邪悪さや暴力がきよめられるように祈って下さい。 神様はたいへんな時代にあっても伝道の働きをいつも助けて下さいます。もし私たち神の子どもがすべてを神に委ねて物質主義の束縛から自由になるなら、神の真実なさばきを恐れることはなくなります。真実は…神のさばきの時こそクリスチャンがますます福音を広く宣べ伝えるときなのです。さばきの時こそ、クリスチャンの価値が明らかにされ、霊的な飢え渇きで人の心がかき立てられます。